**組織的な若手研究者海外派遣事業　報告書**

　　筑波大学　医学群医学類3年　中村文香

＜出張先＞

韓国　忠南大学病院皮膚科

＜期間＞

2011年8月21日～8月28日（7日間）

＜研修内容＞

一週間のスケジュール表

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | Monday | Tuesday | Wednesday | Thursday | Friday |
| AM | Laboratory | Operation | Laboratory | Operation | Treatment  　　 room |
| PM | Treatment  　 room | Laser clinic | Treatment  　　 room | Treatment  　　 room | Treatment  　　 room |

私は研修時M2であったが、縁あって皮膚科の臨床現場を見学させていただけることになった。

Treatment roomでは日本でいう初期研修医が軽症の外来患者の治療風景を見学させていただいた。ここでは初期の皮膚がんややけどに対する処置を行っていた。患部写真撮影を頻繁に行い、朝のミーティングで科の医師全員で患者さんの進行状況を把握するのを見て、臨床の現場というものを感じることができた。また研修医の先生方は私に大変よくしてくれ、忙しい時間の中患者さんの治療が終わるたびにその人の病名、行った処置など詳しいことを教えてくださったので、5日間で患部を見ればその人の病名の予想がある程度つくようになった。

Laser clinicでは肌のトラブルに悩む患者さん、（主にニキビ）、にレーザーを当てることで嫌気菌であるアクネ菌を空気に触れさせて殺菌することなどを主な業務としていた。Operationで見せていただいたほくろ取りの手術も同じことが言えるが、韓国の美容整形は安価で行える上に優秀であるとの日本での通説があるので美容整形外科にかかればよい様な気もするが、そこはやはり韓国でも美容整形は高額ならしく一般庶民でも気軽に行えるように皮膚科にも似たような診療が行えるようにしているのだそうだ。（皮膚科での美容系クリニックのことをCosmetic Sergeryという）最近は美容整形にも税金がかかるようになったらしく、美容整形ができること＝高額所得者のステータスとなっている一面もあるという。

　Operationではほくろ取りのほかにも頭の腫瘍や皮膚がんの手術を見せていただいた。皮膚がんの手術の際には組織診までの過程を見せていただいたし、40代からできたほくろが皮膚がんの危険性があるため、レーザー治療を安易にしてはならないことを教わった。他にも私が下級生ということもあり、皮膚科の組織学などの基礎医学を教えていただいた。組織学を復習するよい機会となった。

Laboratoryでは細胞培養とアンドロゲンの研究の会議に参加させていただいた。会議はすべて韓国語で行われたが、スライドが英語であったため大まかな理解はできた様に思う。アンドロゲンの研究では毛の育毛について話し合われていた。男性ホルモンであるアンドロゲンが多いほど禿げるというもので、その原因はアンドロゲンがIGF-Ⅰを生産するからと推測されていた。またARA70が弱い、BDNFが多いなどが禿げるヒトの特徴だそうだ。また精巣を取り除くと髪が生えるそうだ。そして面白い着目点だと思ったことの一つが、三叉神経のV1~V3それぞれの支配領域が禿げ方に関係がありそうな形になっているということだ。この点についてはまだ研究を進め始めてなかったが、確かに関係がありそうだと大変興味を持った。また禿げた人ほど頭がよい人が多いとの教授陣の冗談がとんだが、アンドロゲンの多さと知能能力の高さの関係性も大変興味深いものであると思う。

＜感想＞

　今回下級生としての参加、かつ1週間という短い期間での研修であったが臨床の現場というものにこの時期触れられたことは大変有意義で貴重な経験であったと思う。

下級生にとって医療現場はなかなか想像しにくく、勉強にも力がいまいち入らないことが多い。今回の研修は医学生であるモチベーションを私に持たせてくれるものであった。今現在勉強していることがあのような現場でどのように発揮できるのかを考えることで学ぶ意欲が以前より増したように感じる。

ゆえに私は筑波大学でも下級生のうちからたまに臨床の現場に触れ合わせることも大切ではないかと思う。中にはだらしがない学生、知識が少ないものもいて現場に支障が出るからと反対意見が出ることも確かに考えられるが、むしろそういう学生の方があせりなどを感じ、勉強に身を入れるのではないかと考える。

私は勉強する際は今回の韓国留学のことを思い出し、彼らと同じフィールドに立つことを未来予想図に描きながら一生懸命やっていきたいと思う。